



物事の本質を見極める力を

～ Critical Thinking:[クリティカルシンキング] (批判的思考) ～

「*VUCA(ヴァーカ)時代の到来」や「Diversity(多様性)」が叫ばれて以来、既に十数年が経過した今、Chat GPTや生成AIなどあらゆるITテクノロジーが我々の生活を劇的に変化させ続けています。朝のNHKニュース「おはよう日本」の中でもAIの音声が最新のニュース原稿を読み上げるといったコーナーもあるくらい。時代は変わったなぁと痛感させられます。

*VUCA : Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)の頭文字を並べたもの。
軍事用語として誕生した言葉が、教育界やビジネス界でも用いられるようになったとされている。

今なお被害の全容がつかめていない石川県の能登半島地震やその翌日に発生した日航機と海保機の衝突炎上事故と大波乱の幕開けとなった2024年(令和6年)。政治の裏金問題、京都アニメーション放火殺人事件の被告に死刑判決、甲府市で夫婦が殺害された事件で当時19歳の特定少年に初となる死刑判決、さらに世界に目を向ければ、未だ終結の見えないイスラエルとパレスチナ問題、ロシアのウクライナ侵攻…。まさに一寸先は闇、何が起こるのか想定すらままならないVUCA時代なんだと言えるでしょう。(明るいニュースがない訳ではありませんが、暗いニュースに圧倒されてしまいますよね…)

そんな予測不可能な時代(=新しい時代)を生き抜いていくために、AIとの共存生活に対応できるよう課題や疑問に対して自ら考える力を育てる教育が必要とされ、物事の本質を見極める力や、自ら課題を設定し解決できる力を持つ人材が求められていると言われています。

物事の本質を見極める力(見抜く力)とは、一言で言えば「洞察力」(どうさつりょく)のこと。洞察力と対比して用いられる言葉に「観察力」がありますが、目に見える表面的な部分を注意深く見る力が観察力であるのに対して、洞察力は目には見えない部分をも対象にして推察する力のことを言います。そう言えば20代の頃、教師として指導者(野球)としてまだまだ駆け出しだった私に亡き恩師がよく「洞察力を磨きなさい」と言っていたことを思い出します。(日々勉強です)

その洞察力を高めるための数ある方法の一つにCritical Thinking(批判的思考)の力を高めるという手法があって、その方法で高められた洞察力によって、物事の状況を正確に把握し、課題・問題の本質を見抜くことができるので適切な判断や効果的な改善策を考案することができたり、相手の本心や意図を読み取ることができるので対話がスムーズに進むなどコミュニケーション能力が向上したりといったメリットがあるのだそう。察知能力が高いので、先回りした行動により「気が利く人」と多くの場面で好意的な印象を持ってもらえるということもあるとか。

「批判的思考」という活字だけを見れば、「物事や他者を批判的に捉える考え方」のように見えますが、そうではありません。批判的思考力のベクトルはあくまで自分自身に向いていて、自身の主観や先入観を一旦捨て去り、「本当にこれでいいの?」とか「何でこうなるの?」とか、自分で自分の考え(悪い思考の癖とか)を否定するところにフォーカスされているのです。つまり自分に対して「間違っているかもしれない」と批判的な視点を持つことで物事の本質に迫ろうというもの。

確かに言われてみれば人間の「思考」ってよく考えてみると、結構いい加減だったりする経験ってありませんか?「思い込み」によるミステイクとか、「先入観」だけで人を判断するとか、「これまでの経験や記憶」で物事を片付けようとしたら大失敗したとか。(私はしょっちゅう…)

もっとわかりやすく言うと例えば、たくさん勉強したはずなのにいい点数が取れなかったとします。「あれだけ頑張ったのになぁ」と感情に走ったら終わり。そうではなく「なぜこうなったのか?」、「試験前の学習の仕方は本当に正しかったのか?」と自分自身にフォーカスを当てて批判的に思考することでなぜ点数がよくなかったのかという本質を見極めることができるようになるということです。その中に「教科ごとの学習

時間の配分はどうだったのか？」という数値だったり、「試験範囲に対する学習の仕方としてどうだったのか？」という内容だったりがあるとより自己分析が深まりますよね。

要は常に自分自身を常に客観視すること。物事に対して、他者に対して、「自分の考え方や態度、言葉遣いはこれでいいのか？」、「自分自身の考え方に思い込みや先入観がないか？」、「自分以外の他者は物事に対してどのように考えているのか？」、と。

冒頭に記したように先行き不透明な時代を生き抜くためには、いくつ歳を重ねようが考え方や心は常にアップデートしなければならないということでしょうか。もちろん、「いつの時代でも変わらない本質的なものを大事にしつつ新しい変化も取り入れる」という「不易流行」という考え方がベースとなりますが。

INSIDE OUT No. 37も難しい内容になってしまいました。私自身に対する戒めも込めて参考までに。